

旧核融合フォーラムにおいて、平成14年度から平成18年度まで実施した活動や掲載などをご覧いただくため当面の間表示します。該当する最新の内容については、核融合フォーラムの発展継承となる [核融合エネルギーフォーラム](#) のホームページからご覧下さい。

○15:50 ITPA(国際トカマク物理活動)

調整委員会 委員(日本原子力研究開発機構 グループリーダー) 鎌田 裕

<質疑応答>

【香山晃】 まず、組織的な問題について聞きたい。最初にITPAは「IFRCの支持の下」で活動していると言われたが、そのあとの図にはどこにも出てこない。ITERとの直接的な関係が出てくるだけである。これではITPAの位置付けがよく理解できないので、教えていただきたい。

【鎌田裕】 そこが今、ITPAの一番難しいところである。もともと、ボランティアな活動ということで始まったが、ボランティアな活動というもので、はたしてITERから要請されるタスクというものをこなすことができるのかというところが、今、非常に問題であり、そのためにCharter(憲章)の改定をしている。自分たちではITERからの要請に対してちゃんと貢献すると言うわけだが、資金を持っているわけでもなく、命令権を持っているわけでもない。7極のITPAに参加している研究員を出している研究所がそれに応えるだけの資金分担をしていかなければならないという状況になっている。これに対し、ITERの中でちゃんと位置付けてほしいというのが、今、ITPAが一生懸命にやっていることである。

【香山晃】 やはり、見ていて不思議に思うのは、コーディネーションはあるのだが、その上のステアリングやマネジメントが見えないということであり、疑問に感じる。

【鎌田裕】 その通りである。

【香山晃】 データを出しているのが原子力機構だけからであり、他には日本からITPAにデータが出ていないという話があったと思う。他にもLHDなどの装置がいろいろあるわけだが、これは結局、データを出さないのか、出せないのか。

【鎌田裕】 もう少し正確に言うと、トカマクのオペレーションや共同実験に関してのデータベースについては、JT-60しか対応できない。他にそれができる装置は国内にない。ただし、もう少し基礎的なところで、データというよりも知見や得られた依存性など、特に材料関係や計測関係については貢献がある。計測についていえば、データベース化とは少し違うが、もちろん、LHDなど他の組織からの貢献もある。

【高村秀一(司会)】 今の回答でよいと思うが、二点目については、やはり、データベースの関係だと思う。データベース以外の部分に対しては、大学からの貢献もかなり大きなものがあるということをつけ加えたい。また、一点目については、IAEAとの関係は、必ずしも「ボランティア」ということではない。そこは誤解されると困るのでコメントさせていただきたい。